

アイセフ

ICEF (Innovation for Cool Earth Forum) クローリングセッション

中根政務官挨拶

日本は昨年、攻めの地球温暖化外交戦略「ACE: Actions for Cool Earth」を策定いたしました。その一角をなす重要な会合である Innovation for Cool Earth Forum が、このほど成功裏に開催されたことに、心からお祝い申し上げます。

皆様ご承知のように、近年、気候変動による生態系や人間社会への影響が明らかになりつつあります。温暖化への対応は、今や国際社会の喫緊の課題です。全世界規模で経済成長や貧困撲滅と両立した形で温暖化対策を早急に進める重要性が増しています。

こうした問題意識の下、日本も国際協力の分野において、低炭素成長に資する取り組みを積極的に行っています。先月ニューヨークで開催された国連気候サミットで安倍総理は、①途上国支援、②技術革新と普及、③国際枠組みへの貢献の3つを柱とする、気候変動分野での日本の貢献策を発表しました。3年間で1万4千人の人材育成の約束を初めとして、いずれもエネルギー・環境分野にも資することが期待されています。

また、日本が過去二回に亘って開催した東アジア低炭素成長パ

ートナーシップ対話においては、低炭素技術の移転・普及に向けた官民連携強化の必要性や、二国間クレジット制度を含む市場メカニズムの有用性について議論を深めました。今月末に横浜で開催予定の第3回パートナーシップ対話においても、技術移転と官民連携を中心に、各国の取組を共有することを目指しています。

気候変動に関しては、2015年12月にパリで開催される^{コップ}COP21において、新たな国際枠組みが決まることとなっていますが、気候変動への対応は、2015年で終わるわけではありません。世界中の国々が低炭素技術の革新と普及をすすめる、官民が連携して長期にわたり実効性のある対策をとることが必要です。

技術革新の分野で主導的役割をはたす皆様が、これからもこの分野での国際協力推進のために活躍されることを期待いたします。